

けやきの森幼稚園年長5歳児保育指導案

指導者 どんぐり組担任 ○○ ○○
さくら組担任 ○○ ○○

1 単元名 「にんじゃひろばをつくってちょうせんしよう」

2 ねらい

【何ができるようになるか】

「自分を高める」

・自分なりの目的をもち、試行錯誤しながら最後まで取り組み、できるようになる達成感を味わう。

「人とよりよく関わる」

・友だちとの関わりを通して、自分のよさや友だちのよさに気づき、それぞれが力を出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。

【何を学ぶか】

現代の子ども達はゲーム、DVD、スマートフォンの普及、遊び場の不足など、様々な理由により外遊びの経験が減少し、体力の低下が問題となっている。また、主体的に遊びを探し、作り出す経験も不足する傾向にある。子ども達は興味をもった遊びに夢中になって取り組む中で、心や体を動かしていく。自分の思いや考えを実現しようと主体的に活動することは豊かな遊びとなり、身体的諸機能の発達も促すものと考えている。

そこで本活動は、「忍者のように強い心と体になろう」という目的をもち、忍者修行に取り組む中で、自分の目標を見つけ、その目標に向かって粘り強く頑張ろうとする気持ちの育ちや、伸び伸びと体を動かして遊ぶことによる身体の諸機能の発達等、心と体の両側面の育ちが期待できる。また、そのための遊びの場を自分達で考え、友だちと一緒に作ったり修行したりする中で、自分の考えを伝えたり、友だちの考えを受け入れたりする協同性や、皆で遊ぶために必要なルールを考えたり守ろうとしたりする道徳性や規範意識の芽生えを育んでいく上でも意義深いものと考えている。

【どのようにして学ぶか】

(1) 遊びに対して目的をもつ

・年中の時に年長児と一緒に取り組んだ忍者広場での修行を思い出しながら、自分達の体が強くなるための修行の場を決める。グループの友だちと、どのようにして作っていくのか、何が必要なのかなどを話し合い、活動に対しての目的や見通しをもつ。

(2) 実践する

・遊びに必要なものを並べたり、組み立てたりして修行の場を作っていく。
・どうしたら体が強くなるのか実際にやってみたり、安全に遊ぶためのルールを考えたりして、遊び方や場の構成を考え合う。
・できあがった修行の場に挑戦し、目標に向かって伸び伸びと体を動かして遊ぶ。
・日々の遊びの振り返りの場で修行の中で気づいたことやできるようになったことを出し合い、次の日の修行への目的をもつ。

(3) 振り返る

・目的をもって取り組んだ満足感を味わうとともに、自分や友だちの考えのよさ、力を合わせて取り組むことのよさを実感する。
・「年少、年中さんにも修行させたい」という気持ちをふくらませる。

【幼児の実態】

本学年の子ども達は、当番活動や遊び、運動会に向けての活動を通して、友だちと一緒に同じ目的に向かって取り組むことの楽しさや目的を達成したときの喜びを味わう経験を重ねてきている。その中で、自分の思いや考えを伝え折り合いをつけながら話し合ったり、友だちのよいところを認めたりする姿も見られるようになってきている。しかし一方で、できないことや難しいことにはなかなか挑戦できなかったり、関わりの中で自信をもって自分の考えを相手に伝えることができなかったりする姿も見られる。そこで、目的をしっかりとって取り組むことで一人一人の考えや力が発揮され、個の力が皆の目的の達成に欠かせないことを実感させたい。また、何にでも挑戦してみようという意欲を高め、「やればできる」という達成感や自信につなげていきたい。

3 本時

(1) ねらいと内容 ※ () は「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」

[自分を高める]

- 目的に向かって、自分なりに考えたり、工夫したりしながら最後まで取り組もうとする。
 - ・遊びに必要な道具や材料を選び、目的にあった使い方やより遊びが楽しくなる使い方を考えながら作る。(思考力の芽生え)
 - ・遊具の安全な使い方に気づきながら遊ぶ。(健康な心と体)
 - ・いろいろな遊具や素材などを使って遊ぶ中で形や大きさ、文字などに興味・関心をもつ。(思考力の芽生え)(数量や図形・文字などへの興味・関心)

[人とよりよく関わる]

- ◎ 友だちと考えを出し合い、力を合わせながら、遊びを進める楽しさを味わう。
 - ・グループの友だちとイメージを共有する。(言葉による伝え合い)(豊かな感性と表現)(協同性)
 - ・自分の思ったこと、考えたことを相手にわかるように話したり、友だちの考えを聞いて受け入れたりしながら遊ぶ。(言葉による伝え合い)(協同性)
 - ・ルールや遊び方、役割などを意識しながら遊ぶ。(道徳性・規範意識の芽生え)

(2) 展開

時間	園児の活動	環境構成(★) 援助の内容(○)
13:00	1 忍者広場について話し合う。 ・今日の活動についての話を聞く。 ・各グループで設計図を見ながら、必要な物や活動について話し合う。	○ 「ここもからだもつよいにんじやになる」ために「このような修行の場を作りたい」というイメージを膨らませ、本時の活動への目的がもてるように話をする。 ○ 一人一人のイメージが共通のものになるように、言葉をつなぐ援助をする。
13:10	2 グループに分かれて修行の場を作り変えながら遊ぶ。 ・巧技台、マルチパネル、段ボール等を使った修行 (例) 忍者屋敷、迷路など ・投げる、蹴る、とる等の修行 (例) 的あて、玉入れ、剣の修行など ・くぐる、跳ぶ、渡る等の修行 (例) クモの巣くぐり、トンネル、道作りなど	★目的に合った遊具や材料を準備し、子ども達が自分達で選んで使うことができる場を確保する。 ○ 子ども同士が話をする姿を見守り、場面に応じた言葉を補いながら互いの思いや考えが伝わるように援助する。 ○ 一緒に遊びを作っていく楽しさが味わえるように、友だちの工夫や考えに共感したり、助け合ったりしている姿を十分に認める声かけをする。 ○ 作る過程や修行をする場面での安全面に配慮し、必要なルールに気づかせていくための声かけをする。
13:50	3 活動の振り返りをする。	○ 自分なりに考えたり皆で考え合ったりしていた姿を紹介し、楽しい修行の場作りにつながっていったことを伝え、満足感や次の活動への意欲を持たせる。
14:05	4 片付けをする。	○ 今日の活動から次の活動につながるような片付け方を促す声かけをする。